

日本語教育における Can-do Statementsの活用を考える

ー「生活者としての外国人」に対する 活用事例からー

入江 友理

(とよた日本語学習支援システム)

 とよた日本語学習支援システム

豊田市の概要

- 場所：愛知県中央
 - 人口：426,277人（5/1現在）
うち外国人17,978人
- | | |
|---------|--------|
| ① ブラジル | 6,609人 |
| ② 中国 | 2,760人 |
| ③ ベトナム | 1,918人 |
| ④ フィリピン | 1,914人 |
| ⑤ 韓国・朝鮮 | 1,201人 |



 とよた日本語学習支援システム

「とよた日本語学習支援システム」とは

- 豊田市が名古屋大学に委託
→現在は豊田市と名古屋大学が共働で運営
- 対象：豊田市在住・在勤の外国人住民
- 目的：日常生活を営むために**最低限必要な日本語能力**を身につけられるよう支援すること

 とよた日本語学習支援システム

「とよたシステム」構築の経緯

- H19年：豊田市多文化共生推進協議会に
日本語学習支援専門部会を設置し
予備調査を実施
→豊田市内に在住する外国人住民の日本語使用
と学習環境はどのようになっているのか？
 - 受け入れ側が感じる現状と期待
 - 外国人住民の実際**と希望



名古屋大学留学生センター（2007）『外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査委託調査報告書』

 とよた日本語学習支援システム

『予備調査』の概要

● 調査対象者

	アンケート調査	対面調査
受け入れ側（日本人）	87名	20名
外国人住民	247名	38名

● 受け入れ側への調査項目

- ・ 外国人の日本語能力の現状についての認識、外国人の日本語能力についての希望・期待、日本語能力判定に関する期待と利用方法、など

● 外国人住民側への調査項目

CDSを活用したチェックリストで調査

- ・ 日本語学習実態、日本語学習に対するニーズ、日本語使用状況の実態、日本語能力に対する認識、など

 とよた日本語学習支援システム

調査結果に基づく方針

● 外国人住民の日本語能力の底上げを目指す

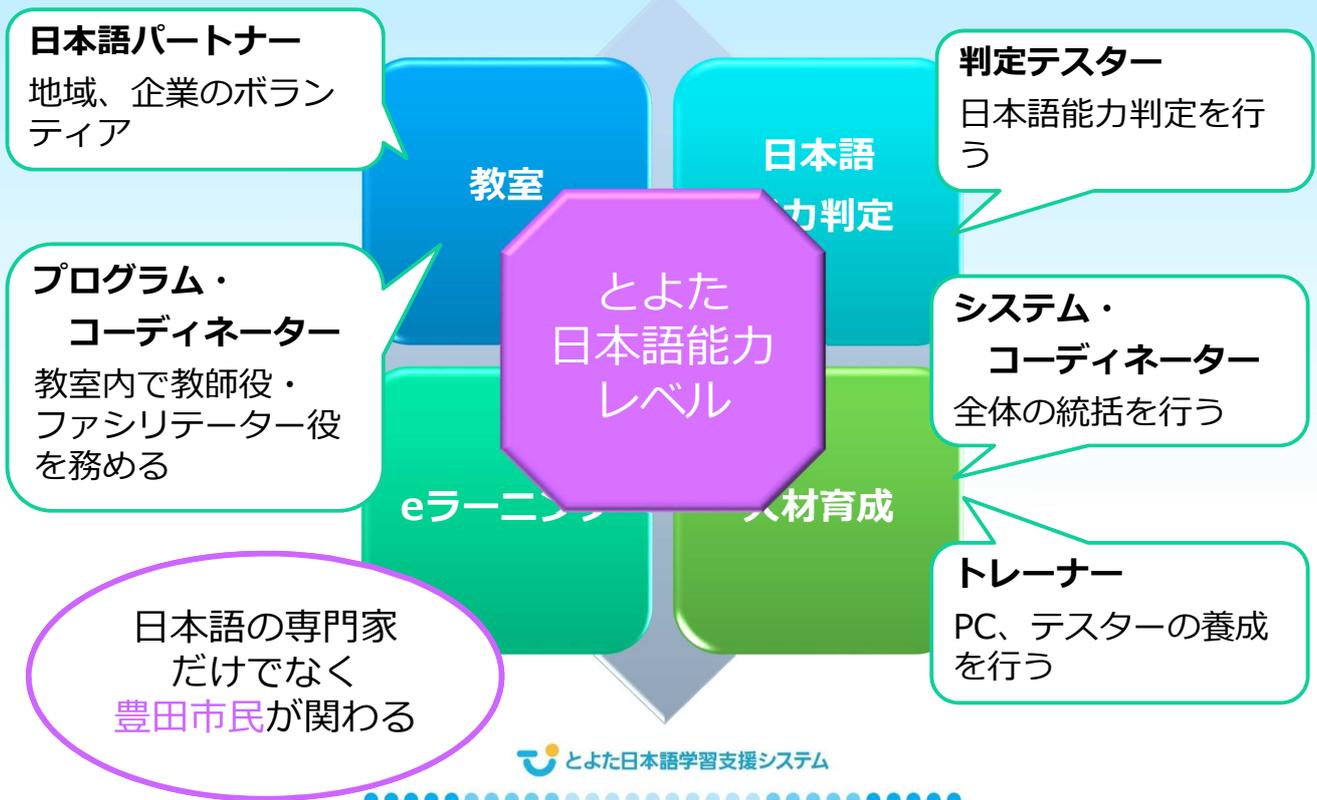
- 日本語がほとんどできない外国人住民を対象者とした教室の開設・運営
- 教室受け入れ対象者を選別するためのプレースメントテストの開発

● 外国人住民の日本語能力を判断するための「ものさし」の作成とその普及

- 一般の日本人にもわかりやすい「ものさし」
- 豊田市内の地域住民を巻き込んだ普及の方法

 とよた日本語学習支援システム

とよたシステムの概要



とよた日本語能力レベル

レベル	段階	内容
6	熟達段階	より抽象的な議論が日本語を用いてできる
5	深化段階	効果的なコミュニケーションが日本語を用いてできる
4	拡大段階	より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションができる
3	自立段階	自立して自分の身の周りの社会参加が日本語を用いてできる
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える
1	基礎段階	限られた単語を理解したり、話す・書くことができる
0	未学習段階	日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない

とよた日本語能力レベルと 行動記述

レベル	段階	内容	聞く	話す	読む	書く
4	拡大段階	より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションができる。	あまり接する機会が少ない車内放送や病院などのアナウンスを聞いて、必要な行動が取れる。仕事や個人的な話題に関して説明を聞いて理解できる。	自分の経験やできごとなど、まとまった話ができる。また相手に対し説明を求めたり、質問することができる。あまり接する機会が少ない場面でも対応できる。	自分で辞書を調べてあまり接する機会のない文や文章が理解できる。	自分で辞書を調べてあまり書いた経験のない文や文章（問い合わせメールなど）が書ける。
3	自立段階	自立して自分の身の周りの社会参加が日本語を用いてできる。	職場や家庭など慣れた場所で質問や指示がわかる。	質問に文で答えることができる。わからないとき、説明を求められることができる。家族について説明したり、人と会う約束をしたり、簡単な感想を述べることができる。	自分で辞書を調べて日常生活で接する機会が多い文や文章（掲示板など）が理解できる。	自分で辞書を調べて日常生活で必要度が高い文や文章（履歴書の志望の動機など）が書ける。
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える。	簡単な日本語で話してもらえば、質問や単純な指示がわかる。	簡単な質問なら単語で答えることができる。わからないと聞き返したり、ゆっくり話すよう依頼することができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。	外国人にとってもわかりやすく書かれていれば日常生活で接する機会が多い語や文の意味が理解できる。	五十音図や辞書を調べたり、人に助けをもらいながら日常生活で必要度が高い手紙などの短いメッセージが書ける。
1	基礎段階	限られた単語を理解したり、話す・書くことができる。	「名前ば？」のような簡単な質問がわかる。はっきりゆっくり言ってもらえば、自分のよく聞き慣れたものの名前や地名などが聞いてわかる。ものの値段や曜日、日付、時刻などが聞いてわかる。	日常生活で必要度が高く、接する機会が多い語であれば出身や居住地域、電話番号、時間、値段など基本的なことが単語で言える。	ひらがな、カタカナ、漢字で書かれた自分の名前、国名など日常生活で必要度が高く、接する機会が多い語であれば理解できる。	名前、国名、住所、所属など使用頻度や必要度の高い語をひらがな・カタカナ・漢字のいずれかで書ける。
0	未学習段階	日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない。	あいさつや自分の名前を呼びかけられていることがわかる。	あいさつができる。名前が言える。		

とよた日本語学習支援システム

とよた日本語能力レベルと 行動記述

レベル	段階	内容	聞く	話す	読む	書く
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える。	簡単な日本語で話してもらえば、質問や単純な指示がわかる。	簡単な質問なら単語で答えることができる。わからないと聞き返したり、ゆっくり話すよう依頼することができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。	外国人にとってもわかりやすく書かれていれば日常生活で接する機会が多い語や文の意味が理解できる。	五十音図や辞書を調べたり、人に助けをもらいながら日常生活で必要度が高い手紙などの短いメッセージが書ける。

とよた日本語学習支援システム

日本語能力判定でのCDS活用

●どのような目的で行っているか

- 自己評価によって自分自身の日本語使用場面や日本語能力を振り返る
- 判定結果から「とよた日本語能力レベル」に照らして現在の自分の日本語能力を知る

●どのように活用しているか

- 対象者判定の自己評価：4技能30項目
- レベル判定の自己評価：4技能80項目
- 判定結果の提示

とよた日本語学習支援システム

日本語能力判定でのCDS活用

●対象者判定の自己評価チェックリスト

日本語

Can-do-statements【自己評価チェックリスト】 ID番号 _____ 名前 _____

あなたは日本語で次のようなことができますか？ あてはまる数字に○をつけてください。

1：まったくできない 2：あまりできない 3：なんとかできる 4：簡単にできる

聞く		難			易
1	「こんにちは」「いらっしゃいませ」などの挨拶を聞いて理解できます。	1	2	3	4
2	はっきりした発音で、ゆっくり言ってもらえれば、質問や指示が理解できます。	1	2	3	4
3	乗り物に乗っているとき、知っている駅の停留所の名前を聞き取ることができます。	1	2	3	4
4	自分の知っている日本人の名前を聞き取ることができます	1	2	3	4
5	いい店や場所について質問したとき、ゆっくり話してもらえれば、理解できます。	1	2	3	4
6	よくある状況で「このごろ、どう？」のような日常的な表現をいくつか理解できます。	1	2	3	4
7	店内の放送などで呼ばれて、どこに行けばいいか聞いて理解できます。	1	2	3	4
8	病院や薬局で薬をもらった時の飲み方の説明を聞いて理解できます。	1	2	3	4

とよた日本語学習支援システム

日本語能力判定でのCDS活用

●対象者判定の自己評価チェックリスト 〈他のCDSの例〉

- 話す：会う約束をするとき、自分の都合のいい場所と時間を伝えることができます。
- 読む：工場や団地内の「注意」「立入禁止」など漢字の意味がわかります。
- 書く：自分の住所がひらがなやカタカナ、または漢字で書けます。

 とよた日本語学習支援システム



日本語能力判定でのCDS活用

●レベル判定の日本語能力セルフチェック



The screenshot shows the website for the 'とよた日本語学習支援システム' (Toyota Japanese Language Learning Support System). The header includes navigation links for Japanese, Portuguese, Chinese, English, and Spanish. A main banner features the slogan '日本語でつながる All Begins with Communication' and a 'Click!' call to action. Below the banner, there are sections for 'スタッフ募集' (Staff Recruitment), '学習者募集' (Learner Recruitment), and '活動レポート' (Activity Report). A central box highlights the '日本語能力セルフチェック' (Japanese Language Self-Check) feature, which is the focus of the adjacent CDS interface.



The screenshot shows the CDS interface for the '日本語能力セルフチェック' (Japanese Language Self-Check). The interface is titled '話す' (Speak) and contains the instruction: '相手の人が言っていることがわからないとき、わからないと伝えることができます。' (When you don't understand what the other person is saying, you can let them know you don't understand). Below the instruction, there are four icons representing different levels of understanding: 'まったくできない' (I can't do it at all), 'あまりできない' (I can't do it much), 'なんとかできる' (I can do it with some effort), and '簡単にできる' (I can do it easily). A '次へ' (Next) button is located at the bottom of the interface. At the very bottom of the page, there is a '音声' (Audio) icon and a '残り時間' (Remaining time) indicator.

日本語能力判定でのCDS活用

● レベル判定の日本語能力セルフチェック 〈他のCDSの例〉

聞く：ポイントカードを持っているかなど、レジの店員からのよくある質問が理解できます。

読む：郵便局や宅配便などの不在連絡票が読んで理解できます。

とよた日本語学習支援システム

日本語能力判定でのCDS活用

● 対象者判定やレベル判定の結果の提示

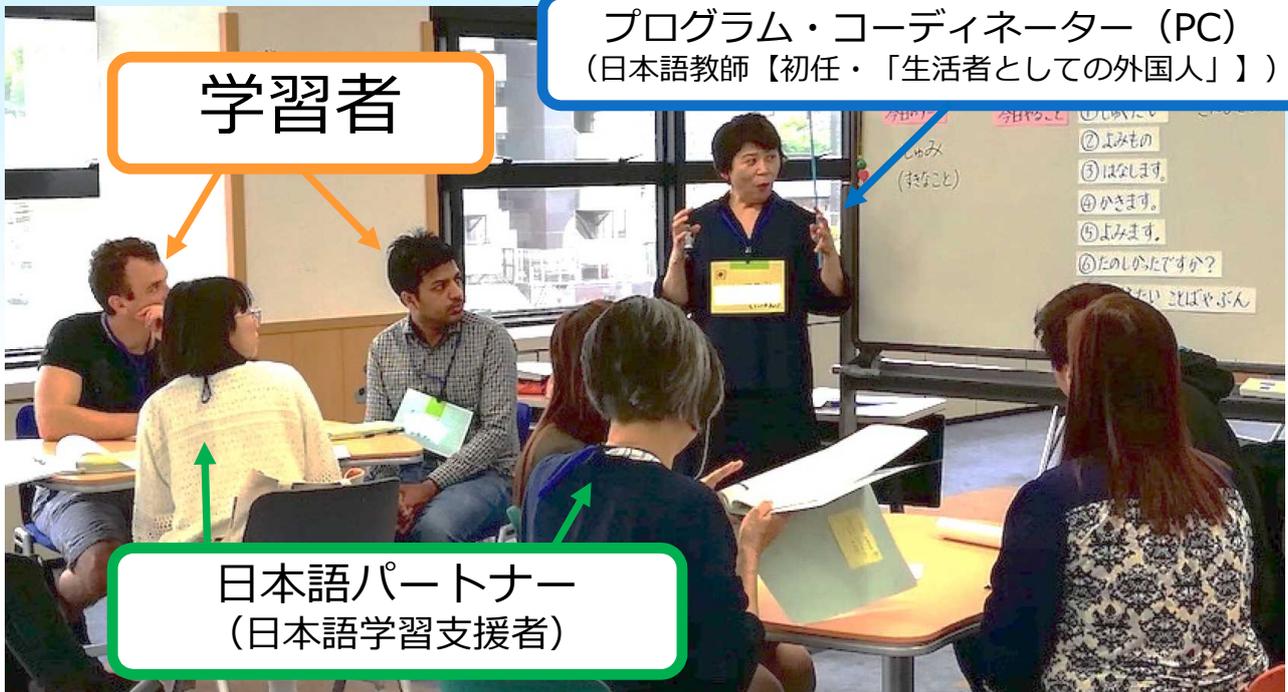
「とよた日本語能力レベルと行動記述」のうち、
対象者判定は0～2レベルの表、
レベル判定は0～4レベルの表を記載

対象者判定試験結果					
		××××		殿	
受験言語：		△△△△			
		判定日	20XX	年	○月 ○日
		判定結果	レベル		
		聞く	2		
		話す	0		
		読む	1		
		書く	2		
20XX 年 ○月 ○日		とよた日本語能力レベル			
段階	内容	聞く	話す	読む	書く
2	要支援段階 周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える。	簡単な日本語で話してもらえば、質問や単純な指示がわかる。	簡単な質問なら単語で答えることができる。わからないと聞き返したり、ゆっくり話すよう依頼することができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。	外国人にとってもわかりやすく書かれていれば日常生活で接する機会が多い語や文の意味が理解できる。	五十音図や辞書を調べたり、人に助けてもらいながら日常生活で必要度の高い手紙などの短いメッセージが書ける。
1	基礎段階 限られた単語を理解したり、話す・書くことができる。	「名前は何？」のような簡単な質問がわかる。はっきりゆっくり書ってもらえば、自分のよく聞き取れたものの名前や地名などが聞いてわかる。もの、値段や曜日、日付、時刻などが聞いてわかる。	日常生活で必要度が高く、接する機会が多い語であれば出身や居住地、電話番号、時間、値段などが基本的なことが単語で言える。	ひらがな、かたかな、漢字で書かれた自分の名前、国名など日常生活で必要度が高く、接する機会が多い語であれば理解できる。	名前、国名、住所、所属など使用頻度や必要度の高い語をひらがな・かたかな・漢字のいずれかで書ける。
0	未学習段階 日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない。	あいさつや自分の名前を呼びかけられていることがわかる。	あいさつができる。名前が言える。		

とよた日本語

教室でのCDS活用

●どのように活用しているか



教室でのCDS活用

●どのように活用しているか

- PCが、**判定試験では測れない言語能力**を把握するために、学習者の自己評価を確認する
- **活動目標**として学習者と日本語パートナーにCDSの形で提示する
- 自己評価を**コース後の振り返り**のときに使用

eラーニングでのCDS活用

●どのように活用しているか

- 「とよた日本語能力レベルと行動記述」や自己評価のCDSで想定する場面で教材を作成

TN とよた日本語eラーニング
Toyota Nihongo e-learning

会話
• Treino de conversação(Português)
• practicar a hablar(Español)
• Conversation Practice(English)
• 口語練習(中文)
• 会話(にほんご)

ひらがな
• Hiragana(Português)
• Hiragana(Español)
• Hiragana(English)
• 平假名(中文)
• ひらがな(にほんご)

カタカナ
• Katakana(Português)
• Katakana(Español)
• Katakana(English)
• 片假名(中文)
• カタカナ(にほんご)

履歴書
• Currículo(Português)
• Curriculum vitae(Español)
• Resume(English)
• 簡历(中文)
• 履歴書(にほんご)

機能別

場面別

人材育成でのCDS活用

●どのような目的で行っているか

- とよたシステムの能力観を共有する
- 学習者が目指すべきレベルを意識化する

●どのように活用しているか

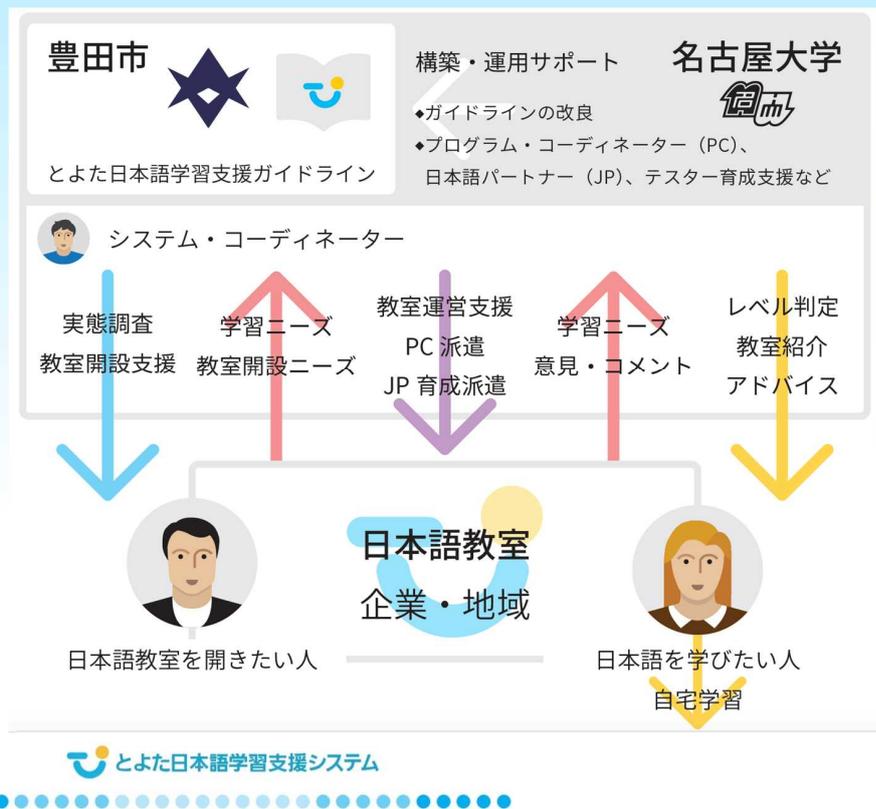
- トレーニング時にとよたの能力観について説明し共有
→ 専門家でない人も関わるとよたシステムでは重要



対外的説明でのCDS活用

●どのように活用しているか

- 市役所職員や企業の担当者にとよたシステムの能力観や目指すレベルを説明する



CDS活用の成果

◆テストや教室では現れにくい言語能力を把握できる

- テストや教室活動では限られた言語行動しか対象にできないが、CDSならより多くの言語行動を対象にできる

◆能力観を共有しやすい

- CDSは非常にわかりやすいので、日本語教育の専門家でない人がPCやテスターになるときに、能力観を共有しやすく、ブレにくい
- 市役所職員や企業の方々にも伝わりやすい

CDS活用の効果

◆学習者にとって

- 自己評価チェックリストとして使うことで、テストで測れない言語行動を測定できる
- 自己評価チェックリストとして使うことで、学習目標を立てられる

◆システムに関わるものにとって

- システム全体の指標として使うことで、教室活動やテスト等のよりどころとなる
- 個々人の基準のブレを最小限にできる

N4? 4級?
何ができるの?

◆非専門家（行政・企業）にとって

- 基準を理解しやすく、能力観を共有しやすい



とよた日本語学習支援システム

今後の課題

◆豊田市でもっと使っていくために

- 「とよた日本語能力レベル」のさらなる普及
とよたシステムに直接関わっていなくても…

この人は「要支援レベル」か…。
少し助けてあげれば会話ができるかな？



- さまざまな背景の生活者に対応した能力記述
や自己評価のチェックリスト

今はさまざまな背景の人を想定して、1つの能力記述
になっているので、分けたほうがいいかもしれない

とよた日本語学習支援システム

今後の課題

◆どのようなCDSを作り、利用するか

